



キャンパス / 福井県吉田郡永平寺町、あわら市、小浜市、勝山市(2026年4月開設予定)、福井市(2027年開設予定)
 学生数 / 2,020人 基本理念 / 魅力ある大学・個性ある大学・開かれた大学
 学部 / 経済、生物資源、海洋生物資源、看護福祉、恐竜(2025年4月開設予定)、地域政策(仮称)(2026年4月開設予定)
 大学院 / 経済・経営学、生物資源学、看護福祉学、健康生活科学
 THE 日本大学ランキング2023 / 151-200位

CASE STUDY

基礎研究力の高さを生かす改組で 福井の持続的発展を担う人材を育てる

福井県立大学

全国的に注目を集める恐竜学部の設置など、近年、積極的に学部学科の改組を進める福井県立大学。その狙いと今後の方針、計画について学長に聞く。



学長 岩崎 行玄
 いわさき ゆきもと ●1985年名古屋大学大学院農芸化学科農芸化学専攻博士課程後期課程単位取得満期退学。1987年名城大学理工学部講師。1992年福井県立大学開学時に講師として着任。生物資源学科長、生物資源学部長を経て、2022年より現職。

県と大学のブランドを強化する恐竜学部

県立大学である本学は、県の持続可能性と、県民の福祉向上に貢献するのがミッションです。福井に足りない教育は何か、県の持続可能性に欠かせない研究は何かを常に考え、長期的な視点で大学のあり方を検討してきました。2019〜2024年度は第3期中期計画に基づき、学部学科等の開設を積極的に進めました。2020年には、農作物の生産技術から農場の経営、マネジメント、環境保全まで幅広く「農」を学ぶ創造農学科を、2022年には、ゲノム科学やIoT技術を活用した水産増養殖を学ぶ先端増養殖科学科を開設しています。前者は、生物資源学部が持つ化学系の研究の強みのうち「農」の分野に特化したもの、後者は、海洋生物資源

学部の一分野の専門性を高めたものです。これらの学科で、地域の産業振興を担う人材を育てます。さらに2023年には、県内初となる看護系博士後期課程を設けました。

2025年4月には、国内唯一の恐竜学部を新設します。恐竜王国・福井のブランド向上と、大学の個性化を図るのが狙いです。キャンパスを置く勝山市は、恐竜化石の宝庫。学部棟は県立恐竜博物館の隣に建設し、博物館の研究員・学芸員による講義や助言等を行います。発掘調査には海外の研究者も参加するため、学生は最先端の研究に触れられ、国際的な視野を広げることが期待できます。

開設にあたっては、卒業生の就職先を懸念する声もありましたが、発掘調査や地質調査などのフィールドワークだけでなく、過去の気候変動の実態を明らかにする古環境学も学ぶため、防災や地質のコンサルティング、土木・建設業界などへの就職が期待できます。また、化石の研究を通して、CTスキャンや、VRの先端技術も学ぶので、デジタル関連の職でも力を発揮できるでしょう。初年度の総合型選抜では県外からも多数の出願があり、倍率が10倍を超えました。手心えを感じています。

研究力の高さと幅広さを社会にわかりやすく伝える

福井県にとって若年層の県外流出は大きな課題です。恐竜学部以外にも、本学にある教育研究の魅力を地元高校生に知ってもらう必要があります。本学の強みは基礎研究力の高さですが、基礎研究は高校生が興味を持ちにくいいため、研究の将来性や楽しさに焦点を当てた「福井県立大学研究シーズ集」を発行しました。編集時に重視したのは「読みやすさ」。1シーズを1ページで紹介し、図版を多く入れて平易な言葉で説明しています。「輸入品を福井で作る」という横断的なテーマで複数の教員に執筆してもらうなど、「この先生と学びたい」「この大学と商品開発したい」と思ってもらえるような工夫をして、高校や企業に配布しています。

2026年には、地域イノベーションの創出に必要な理論と実践を体系的に学ぶ、地域政策学部(仮称)を新設する計画です。既存の学部についても、新学部設置を刺激として、高校生や企業に届く自学部ならではの魅力を発信できるよう、教職員一人ひとりがアグレッシブに努力してくれるよう働きかけていきます。

第3期中期計画以降の学部学科新設の流れ

年度	2019年		2020年		2022年		2025年		2026年	
変化	第3期中期計画スタート		広く「農」を学ぶ創造農学科を開設		「水産増養殖」を中心に学ぶ先端増養殖科学科を開設		「世界的な学術拠点」となる古生物学関係の恐竜学部を開設予定		「次世代の地域のリーダーを養成する」地域政策学部(仮称)を設置構想中	
学部・学科	経済学部	経済学科(100)	経済学部	経済学科(100)	経済学部	経済学科(100)	経済学部	経済学科(100)	経済学部	経済学科(80)
		経営学科(100)		経営学科(100)		経営学科(100)		経営学科(100)		経営学科(80)
	生物資源学部	生物資源学科(45)	生物資源学部	生物資源学科(45)	生物資源学部	生物資源学科(45)	生物資源学部	生物資源学科(50)	生物資源学部	生物資源学科(50)
		創造農学科(25)		創造農学科(30)		創造農学科(30)		創造農学科(30)		
	海洋生物資源学部	海洋生物資源学科(50)	海洋生物資源学部	海洋生物資源学科(50)	海洋生物資源学部	海洋生物資源学科(50)	海洋生物資源学部	海洋生物資源学科(50)	海洋生物資源学部	海洋生物資源学科(50)
		先端増養殖科学科(30)		先端増養殖科学科(30)		先端増養殖科学科(30)		先端増養殖科学科(30)		
看護福祉学部	看護学科(50)	看護福祉学部	看護学科(50)	看護福祉学部	看護学科(50)	看護福祉学部	看護学科(50)	看護福祉学部	看護学科(50)	
	社会福祉学科(30)		社会福祉学科(30)		社会福祉学科(30)		社会福祉学科(30)		社会福祉学科(30)	
							恐竜学部		恐竜・地質学科(30)	
								地域政策学部(仮称)	地域イノベーション学科(仮称)(70)	

【大学院】
 2023年 健康生活科学研究科 (看護系の博士後期課程)を開設

*2026年の入学定員は現時点での予定であり、今後変更される場合があります。

注目

地域のリーダーを育成する新学部の設置で 文系生徒の県内進学を図る

福井県立大学は2026年に「地域政策学部」(仮称)を新設する計画だ。同学部では地域にイノベーションを創出するリーダー育成をめざす。地域におけるフィールドワーク、ビッグデータや情報システム技術の演習、就労体験型学習、協定校で学ぶ国内留学などをカリキュラムの特徴とする。

若者の県内定着も、この学部新設の狙いの一つだという。福井県内の大学には文系学部が少ない。2023年度の県内高校卒業者のうち、文系学部進学者は1,875人だったが、県内大学の文系学部の収容定員は520名。収容力が3割以下で、文系学部を志望する高校生の多くは、県外に進学していた。岩崎学長は、「地元高校生の県内進学を選択肢を広げる新学部の開設は、県が設置する公立大学の使命だと考えた」と説明する。

現在、同大学の県内出身者の割合はほぼ5割。「多様性の確保という意味で、県内出身者と県外出身者のバランスは良いと思う。恐竜学部は県外出身者が多くなるだろう。他方、地域政策学部は、多くの県内出身者に来てほしい。県内外の学生が共に学び合える公立大学にしていきたい」(岩崎学長)。

出身地域別学生数(学部・大学院)

